

フランスを最後として、世界資本主義の恐慌は、恐慌の中心地たるフランスに波及し、今次の恐慌は既に扉四耳に入らんとして居るに寧ろ是の恐慌は米又恐慌の如く、醜を呈してゐるのは、恐慌の範圍が、全世界を包含してゐる以外、正しき恐慌、獲業恐慌の併行せるが為めである。

恐慌の進展は各國ブルジョアジイをして、産業の恐慌を合理化し労働大衆を犠牲として、之を切り抜ける事に狂奔せしめぬ。

其の必然的結果として、労働強化を、工場閉鎖の断行等々に依り、賃銀の削減、或は不拂、失業等を統出せしめ、これが一般消費階級である労働大衆の購買力を減殺し、一層生産力の停滞を餘儀なくせしめ、恐慌を更に深刻化し、斯の恐慌の重症と資本の攻勢に對抗して、労働大衆の反抗は對立の激化して、一方産業の合理化政策に依る、労働大衆に懸念する事は、以て國內に於ける、購買力の失を高め、國內市場を狭小化せしめ、一層の獲得と強上分割の争が、必然的に惹起せられる。英米、日本を始め幾多の国は、大恐慌に、世界戦争の危機に至る前に現はす、世界恐慌、世界戦争の危機は、資本主義の恐慌の第一の現はす。

能である、然るに國際アルジョアジイは、その生存本能の必然として昨年六月二十日、米大統領フウバアによる、戦債並に對獨賠償金一ヶ年、モラトリアムの宣言がある、ドイツに莫大な長期貸を存しロシア革命に恐怖するアメリカとして、ドイツの危機に臨んでは当然である、而しドイツ並に世界経済救済として期待されるフウバア景氣は、僅かに世界の市場を賑わしたのやで跡方もなく消え去り、再び戦債問題は抬頭し、實情上捧列に迫り、ローザン會議を聞き僅かに、恐慌の破端を維持して居るが、恐慌の波は鋭く、押し進められ、世界的市場なる采洋を其の舞台として、世界戦争の危機は、歐洲列國の根柢を、魔手に依り、展開せんとして居る。

斯の如く戦後資本主義の一般的危機の上に鋭く表現された、第三期の全貌の要約である、今や経済恐慌の全般の危機は必然的政治危機に発展しつゝある。

三、日本資本主義の現勢

日本資本主義が世界資本主義の一環である限り、國際資本主義の現勢は、当然日本資本主義の上に反映する、日本資本主義は、今第三期恐慌の真只中にあるにもか